

JR東日本労働組合 秋田ジャーナル

J R 東日本労働組合

秋田地方本部

発行者 ~ 笹渕 太郎

編集者 ~ 教 宣 部

秋田市中通6丁目7-9秋田県畜産ビル1F

TEL 835-4040 FAX 835-4060



HPはこちら!

2.8 か月分満額回答へ向けて 秋田の声が集う!

安定から希望へ!

各種ローンを抱える多くの社員の士気高揚の為に、年末手当の満額支給を勝ち取る!

ガソリンや灯油の高騰、物価も上がった。これでは安心して越冬することさえできるかわからない。何としても満額回答を勝ち取る!

コロナ禍だから悔しいが仕方がない...

減収でのボーナス減は理解できる。しかし緊急事態宣言時の列車増発など、減収にも関わらず経費のかかる施策をしてきたことは疑問だ。私たち社員に責任を押し付けている気がしてならない。

公共交通を支えるエッセンシャルワーカーとして感染予防対策を徹底しながら安全・安定輸送の確保の為に日々仕事に打ち込んでいます。モチベーションの維持向上のためにも満額回答の見返りを!



『希望』という言葉も出ているように、みんな明るい話題を求めているのがわかるね!

昇給定数の半減や第二四半期決算では1000億円の赤字と、会社として経営が厳しいだけでなく、社員としてもモチベーションが下がる内容が続いている。さらに、昨今の原油価格の高騰によりガソリンをはじめとする様々な製品が値上がりしていることから、ただ単にコロナ禍、赤字という言葉だけでは納得することはできない。

私たちは日本の交通インフラを担うエッセンシャルワーカーとして、お客さまへ今まで以上のサービス提供を実現しながらも、感染予防対策を徹底してきた。黒字とすることはできなかったが、昨年度の第二四半期と比較しても約2500億円の赤字を約1000億円としたことは、私たちが真摯に新型コロナウイルスと向き合い、黒字化に向けて日々邁進してきた結果である。

会社としても、年末手当が社員の生計費となっていることは把握していると明言していることから、私たちの心豊かな生活を守るためにも年末手当の要求満額回答はなんとしても実現しなければならない!

会社へのひと言

中央がやらないと地方が動かないし、すべて上を見た施策になっているような気がする。

エルダー制度 70歳まで延長

統括センターなど効率化施策が進められているが、サービスの低下や技術継承など将来に不安がある。

足早に様々な変革が行われている。将来的に私たち本来の仕事が何なのかわからなくなりそうで不安だ。

JRも4日間の一時帰休でコストダウンするべき

コロナ対策を考える!

秋田の健診センターで会社のワクチン接種をして欲しい。

マスク未着用の場面を見かける。今一度危機感を持って対策を行って欲しい。

単身赴任者や他県をまたぐ出張、研修後の定期的なPCR検査実施。

過剰な予防対策は後のムダにつながる。